

J T B F 宿泊客動向調査

稼働率の推移(見通し) ～ 原油高や経済環境の悪化により下落基調が鮮明に

08年11月に実施した「J T B F 宿泊客動向調査」によると、客室稼働率の実績及び見通しは、「旅館」で08年7-9月期(実績)が前年同期比1.7%減、08年10-12月期(見通し)が前年同期比2.6%減、09年1-3月期(見通し)が前年同期比3.2%減となった。また、「ホテル」では08年7-9月期(実績)が前年同期比2.0%減、08年10-12月期(見通し)が前年同期比4.3%減、09年1-3月期(見通し)が前年同期比2.5%減となった。過去に実施してきた調査の結果(当財団ホームページ掲載の「J T B F 観光経済レポート」参照)によると、05年から07年にかけて旅館の客室稼働率はほぼ前年並み、ホテルの客室稼働率は増加もしくは前年並みであった。また「宿泊旅行統計」(国土交通省)によると、定員稼働率は08年1-3月期が43.2%(前年同期43.1%)、08年4-6月期が42.8%(前年同期42.9%)と若干の減少傾向は見られるものの、08年上半期までは大きな減少とはなっていない。本調査と宿泊旅行統計は、調査規模や稼働率の定義が異なることから単純に比較にすることには注意を要するが、08年前半まで前年並みを保ってきた稼働率は、08年後半には下落基調となり下げ幅も次第に拡大しつつあることがわかる。

稼働率の増減要因に関する自由回答では、08年7-9月期は団体客の減少や原油高のほか、東北では「岩手・宮城内陸地震」、北海道では「北海道洞爺湖サミット」により稼働率が下がったといったコメントがみられた。また、ホテルでは競合施設の進出に関するコメントも多くみられた。08年10-12月期になると、原油高に関するコメントはほとんど見られなくなるものの、金融危機による景気の減速のため観光需要やビジネス需要が減少するとのコメントが多くなり、09年1-3月期は景気減速の影響に関するコメントはさらに増加している。

また、外国人客の増減が稼働率に与える影響については、08年7-9月期では稼働率の“上昇要因”とのコメントと“下落要因”とのコメントが同程度みられた。しかし、最大の訪日客数を誇る韓国の通貨ウォンが9月以降大きく減価し、10月にはドル円が100円を大きく割り込むなど、為替市場の急激な変化を背景に、10-12月期では下落要因として指摘するコメント数が倍増した。09年1-3月期は下落要因として指摘するコメントの数はやや減少するものの、これは為替や海外の経済動向など市場環境を見通すことが難しいためと考えられ、現在の市場環境が好転しなければ引き続き外国人客は稼働率の下落要因となることが予想される。

09年通年の見通しについては、旅館で前年比0.1%増、ホテルで0.0%減と、ほぼ前年並みとなった。08年下半期から下落基調となったものの、09年は下げ止まるとみている施設が多いことが分かる。

宿泊単価の推移(見通し) ～ 旅館は堅調を維持するもホテルは下落に転じる

宿泊単価の実績及び見通しは、「旅館(1泊2食単価)」で08年7-9月期(実績)が前年同期比0.9%増、08年10-12月期(見通し)が前年同期比1.2%増、09年1-3月期(見通し)が前年同期比0.8%増となった。稼働率は原油高や為替の影響、実体経済の減速などにより前年割れとなったものの、宿泊単価については比較的堅調に推移すると予想されている。施設のコメントからは、稼働率の低下を食い止めるため単価を切り下げたとのコメントもみられたが、団体客から個人客へのシフトが単価を下支えしており、外国人客の減少も宿泊単価については上昇要因となったと考えられる。また、施設リニューアルにより単価を上昇させたといったコメントもみられた。

一方、「ホテル(ルームチャージ)」では08年7-9月期(実績)が前年同期比1.9%減、08年10-12月期(見通し)が前年同期比1.5%減、09年1-3月期(見通し)が前年同期比0.9%減となった。ホテルではここ数年単価の減少傾向がつついており、05年から07年にかけて一時上昇したものの、再び減少傾向に転じたようである。施設のコメントからは、新規に進出してきた競合施設に対抗するために単価を下げたといったコメントのほか、リーマンブラザーズの破綻以降に外資系企業の出張需要が落ち込んだといったコメントもみられた。

09年通年の見通しについては、旅館で前年比0.2%増、ホテルで0.2%増と、ほぼ前年並みとなっている。

稼働率の推移(見通し)

上段:稼働率(%)

下段:対前年同期比※(%)

	サンプル数	2008年		2009年	2009年 通年	
		7-9月期	10-12月期	1-3月期		
旅館平均	97	64.3 △ 1.7	60.4 △ 2.6	55.3 △ 3.2	58.8 0.1	
施設規模別	大規模	9	63.0 △ 6.4	60.6 △ 2.9	54.7 △ 1.9	62.9 2.7
	中大規模	33	67.2 △ 0.7	60.8 △ 2.4	52.7 △ 3.0	58.3 △ 0.8
	中規模	26	65.1 1.1	60.8 △ 0.0	59.3 △ 1.2	61.1 △ 0.2
	小規模	29	60.8 △ 3.8	59.5 △ 4.8	55.0 △ 5.6	56.2 0.3
ホテル平均	156	74.2 △ 2.0	71.2 △ 4.3	66.7 △ 2.5	71.1 △ 0.0	
施設規模別	大規模	57	79.0 △ 2.8	78.4 △ 4.1	73.1 △ 3.2	76.9 △ 0.3
	中規模	54	74.2 △ 2.0	71.2 △ 4.4	67.9 △ 2.3	71.9 △ 0.2
	小規模	45	68.1 △ 0.8	61.8 △ 4.6	56.8 △ 1.5	62.9 0.7
ペンション・民宿	4	31.0 △ 27.3	19.2 △ 48.2	17.3 △ 59.5	23.5 4.4	
公的宿泊施設	21	67.7 △ 0.1	56.8 △ 0.3	55.5 △ 1.8	56.9 0.1	

宿泊単価の推移(見通し)

上段:単価(円)

下段:対前年同期比※(%)

	サンプル数	2008年		2009年	2009年 通年	
		7-9月期	10-12月期	1-3月期		
旅館平均 (1泊2食単価)	79	14,993 0.9	15,185 1.2	14,570 0.8	14,825 0.2	
施設規模別	大規模	8	13,126 △ 0.7	12,916 1.9	12,013 1.4	12,289 1.0
	中大規模	26	14,238 1.1	14,194 0.8	13,123 △ 0.0	12,618 △ 1.4
	中規模	24	14,428 0.9	14,010 △ 0.2	14,055 0.6	13,330 0.4
	小規模	21	17,286 1.1	18,732 2.5	18,121 1.6	19,122 1.0
ホテル平均 (ルームチャージ)	98	9,662 △ 1.9	9,352 △ 1.5	8,892 △ 0.9	10,548 0.2	
施設規模別	大規模	38	11,328 △ 1.1	11,318 △ 2.0	10,768 △ 1.1	12,782 0.2
	中規模	38	7,948 0.3	7,838 △ 0.3	7,465 0.1	8,748 0.6
	小規模	22	9,744 △ 6.4	8,463 △ 2.1	8,064 △ 2.0	9,843 △ 0.1
ペンション・民宿 (1泊2食単価)	3	7,530 0.6	7,570 2.3	7,683 2.8	7,838 0.6	
公的宿泊施設 (1泊2食単価)	18	10,184 1.6	10,351 △ 1.7	10,833 △ 1.1	9,898 2.2	

施設規模(旅館): 大規模…客室数150室以上、中大規模…70~149室、中規模…40~69室、小規模…39室以下

施設規模(ホテル): 大規模…客室数201室以上、中規模…101~200室、小規模…100室以下

※本調査では当期および前年同期の実績を尋ねており、「対前年同期比」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

有望マーケットと魅力向上の取り組み

08年11月に実施した「JTB F 宿泊客動向調査」では、経済の厳しさが増す中でも堅調な推移が見込まれるマーケットと、現在取り組んでいる魅力向上の施策について、調査を行った。

宿泊施設が堅調な推移を見込んでいるマーケットは、同行者では“50代以上の夫婦”がもっとも多く、“ビジネス客”、“50代以上の女性グループ”とつづいている。施設タイプ別にみると、「旅館」では“50代以上の夫婦”に期待している施設が6割を超え、「ホテル」では“ビジネス客”が半数を占めた。

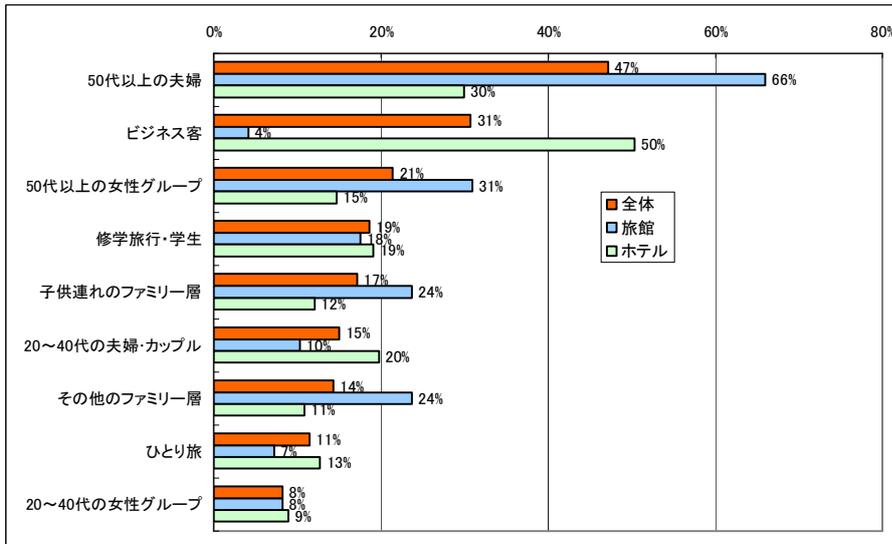
客層をみると、“宿のリピーター”がもっとも多く、“旅行会社経由個人客”、“地域リピーター”とつづいている。施設タイプ別にみると、「旅館」では“旅行会社経由個人客”と“旅行頻度の多い個人客”が比較的多くなった。「ホテル」では、“ホテルチェーン会員等”が比較的多くなっている。なお、09年の見通しが08年を上回ると回答した「旅館」に限ると、“宿のリピーター”に期待している割合が比較的高く、“旅行会社経由個人客”に期待している割合は比較的低かった。このことから、旅館においては旅行会社からの送客に対する依存度を下げ、みずから顧客を囲い込むことのできている施設の方が、経済環境悪化への対応力が強いことがうかがえる。

魅力向上への取り組みについてみると、“過剰でないタイミングのよいサービス”がもっとも多く、“一人ひとりを尊重したおもてなし”、“従業員がいきいきと働く雰囲気”がつづいている。施設タイプ別にみると、「旅館」では“心身を癒してもらう”と“心づくしの料理の提供”が比較的多くなった。「ホテル」では、“過剰でないタイミングのよいサービス”が特に多くなっている。なお、09年の見通しが08年を上回ると回答した「旅館」に限ると、“過剰でないタイミングのよいサービス”と“一人ひとりを尊重したおもてなし”の割合が比較的高くなっている。

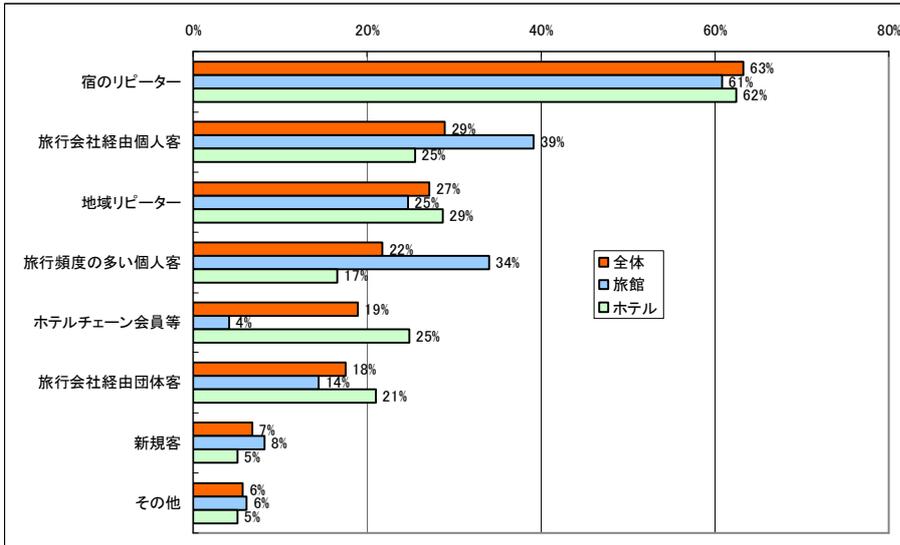
JTB F 宿泊客動向調査

- ・調査期間: 2008年11月19日～12月1日
- ・調査対象: 全国の旅館、ホテル、国民宿舎等公的宿泊施設、ペンション、民宿
- ・調査方法: E-mailにてアンケートを送付、FAXまたはE-mailにて回収
- ・調査数: 1,756軒
- ・有効回答数: 284軒(回収率162%)
うち旅館100軒、ホテル157軒、その他(公的宿泊施設、ペンション、民宿)27軒

有望マーケット（同行者）



有望マーケット（客層）



魅力向上の取り組み

